

国語国文学会だより



No. 51

2014. 10

日本文学科卒業生の会

国語国文学会

春の総会・研究発表会報告

平成二十六年春の総会・研究発表会を五月二十二日(木)、八十年館八五一教室にて開催しました。

◆第一部 総会

(1) 国語国文学会会長挨拶

高野晴代先生

(2) 奨学金授与

青木生子賞

脚本家

大石 静氏(新24)

川村学園女子大学専任講師

森田直美氏(新47・院43)

上村悦子奨学金

院博士課程前期二年次

岡村あずさ氏

院博士課程後期二年次

谷崎たまき氏

茅野蕭々・雅子記念奨学金

院博士課程後期三年次

伊達 舞氏

日本女子大学日本文学科賞(奨励賞)

院博士課程前期二年次

北島礼子氏

学部四年次

上吉原千紘氏

学部四年次

蜂谷百奈氏

日本女子大学日本文学科賞(優秀賞)

学部一年次

川平真由子氏

久松潜一記念奨学金

学部四年次

松崎千尋氏

(3) 受賞者挨拶

(4) 平成二十五年活動・決算報告

(5) 平成二十六年活動計画案・予算案・監査選出

(6) 自主ゼミ発足(学生の会・卒業生の会)、承認

◆第二部 活動報告と研究発表

▼自主ゼミ活動報告

中世自主ゼミ(学生の会)

吉田怜世氏

▼研究発表

中学校社会科教科書の語彙調査

「太字」「索引」「キーワード」の分析を中心に

平成二十五年日本女子大学日本文学科賞

(学術賞)受賞

早稲田大学大学院教職研究科一年 鳥羽田由佳氏

▼留学生紹介及び挨拶

ハイデベルク大学

アネリーゼ・フット氏

▼国語国文学会委員長挨拶・役員紹介(学生の会・卒業生の会)

秋季大会・公開講演会のご案内

◇日時 平成二十六年十一月二十九日(土)

午前の部 研究発表

午後の部 講演

◇場所 午前の部 未定

午後の部 百年館低層棟二〇六教室

◇公開講演

「昔話のおもしろさの秘密」

小澤昔ばなし研究所所長 小澤俊夫氏

「コーパスに基づく格外連体修飾形の研究」

本学文学部教授 田邊和子氏

◇懇親会

講演会終了後、ウィミンにて(予定)

会費三千円(学生千五百円)

平成二十五年度卒業生の会の活動報告

(1) 総務

・ 回生委員会・常任委員会の招集

・ 春季総会・研究発表会の開催 五月二十三日（木）

(2) 企画

・ 自主ゼミの活動（皇女研究会）中止

・ 秋季大会の開催 十一月三十日（土）

・ 研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・ 文学散歩 中止

(3) 会計

・ 会費納入の確認

・ 収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・ 「国語国文学会だより」

秋の大会報告号 四十八号（五月）

春の大会報告号 四十九号（九月）

・ はがき通信 五月（春の総会案内）「たより」に同封

(5) その他

・ 委員の増員

・ 日本女子大学国語国文学会会則の一部改正

・ 平成二十六年度秋季大会の講演者、小澤俊夫氏に決定

平成二十六年度卒業生の会の活動計画

(1) 総務

・ 春季総会・研究発表会の開催 五月二十二日（木）

日本女子大学国語国文学会・卒業生の会 予算・決算

平成26年5月22日

平成25年度 決算

（単位：円）

収入の部

項目	予算(a)	決算(b)	増減(b)-(a)
前年度繰越金	387,109	387,109	0
会費	500,000	458,968	△41,032
利子	0	0	0
寄付	100	54	△46
計	887,209	846,131	△41,078

支出の部

項目	予算(a)	決算(b)	増減(b)-(a)
通信費	250,000	313,592	63,592
文具代	10,000	0	△10,000
コピー代	20,000	22,060	2,060
会報印刷費	100,000	91,350	△8,650
名簿作成費	200,000	0	△200,000
委員会活動費	53,000	34,478	△18,522
・委員会費	(15,000)	(8,478)	(△6,522)
・交通費	(28,000)	(26,000)	(△2,000)
・行事費	(10,000)	(0)	(△10,000)
ゼミ費	10,000	0	△10,000
秋季大会費	80,000	79,681	△319
慶弔費	5,000	5,000	0
パソコン関係諸費	10,000	13,800	3,800
予備費	149,209	0	△149,209
計	887,209	559,961	△327,248

収入の計 846,131 支出の計 559,961 次年度繰越金 286,170

平成26年度 予算

（単位：円）

収入の部

項目	
前年度繰越金	286,170
会費	500,000
利子	100
計	786,270

支出の部

項目	
通信費	300,000
文具代	20,000
コピー代	20,000
会報印刷費	100,000
名簿作成費	0
委員会活動費	87,000
・委員会費	(15,000)
・交通費	(42,000)
・行事費	(30,000)
ゼミ費	20,000
秋季大会費	100,000
慶弔費	30,000
パソコン関係諸費	30,000
予備費	79,270
計	786,270

会計 津田英子 齋藤雅代
監査 齋藤令子 浜田美枝子

(2)企画

・秋季大会の開催十一月二十九日(土)

研究発表大会・総会・講演会・懇親会

・文学散歩の実施予定

(3)編集

・「国語国文学会だより」

秋の大会報告号 五十号(五月)

春の大会報告号 五十一号(九月)

平成二十六年常任委員

総務 永井幸子(新1) 関根 緑(44)

岩切匡子(新4) 保志美也子(新12)

井上 光(新14) 一文字昭子(新37)

総務・会計 津田英子(新6) 斉藤雅代(新19)

企画 沼田久子(新27) 加藤美之(新33)

小林美恵子(新46)

編集 田尾澄子(新36) 遠間倫世(新54)

会計監査 齊藤令子(新6) 濱田美枝子(新21)

研究室だより

○昨年度、倉田宏子先生(近代文学)が退職され、

後任に渡部麻実先生(近代文学)が着任されました。

○今年度後期、清水康行先生(日本語学)が半年間

のサバティカルに出られました。

○昨年度後期、サバティカルを取られた谷中信一先

生(中国思想史)が帰任されました。

○他の先生方は昨年度と変わりありません。

○今年度の先生方です。

平館英子先生(上代文学)

高野晴代先生(中古文学)

石井倫子先生(中世文学)

福田安典先生(近世文学)

山口俊雄先生(近代文学)

渡部麻実先生(近代文学)

清水康行先生(日本語学)

坂本清恵先生(日本語学)

谷中信一先生(中国思想史)

大谷康晴先生(図書館学)

江田すみれ先生(日本語教育学)

田辺和子先生(留学生教育)

○助手の白石美鈴さんが退職され、後任として助教

の岩田芳子さんが着任されました。

○非常勤助手は、ご退職された岩澤絢美さんの後任

に、今年度より上野山礼さん、鴨川都美さんにお願

いしています。

○昨年十二月三日(火)

日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画

「現代イブセン演劇祭」関連企画

シンポジウム「イブセンの女たち―その現代的形象―」

新泉山館国際交流センター大会議室

出演者

コンスタンティン・キリアック氏

(ルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場芸術監督)

ユーニ・ダール氏(女優)

津村禮次郎氏

(能楽師シテ方観世流 観世流緑泉会代表)

岩淵宏子氏(日本女子大学教授、女性文学研究者)

○三月二十二日(土)

日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画

シンポジウム「定家のもたらしたもの―継承と変容―」

新泉山館国際交流センター大会議室

パネリスト

「百人一首と定家」渡部泰明氏(東京大学教授)

「定家から正徹へ」

村尾誠一氏(東京外国語大学教授)

「金春禅竹にみる定家のおもかげ」

味方健氏(観世流シテ方能楽師)

「刃獄の歌人 謡曲「定家」から「明清」へ」

ポール・アトキンス氏(ワシントン大学准教授)

コーディネーター 石井倫子(日本女子大学教授)

○七月十八日(金)・十九日(土)

日本女子大学学術交流企画(共催 高岡市万葉歴史

館/日本女子大学文学部・文学研究科)

(協力 高岡市観光交流課)

展示・講演会

「大伴家持が見た万葉の世界―大和から越中へ―」

企画展示(十八日・十九日) 新泉山館二階

講演会(十九日)新泉山館国際交流センター大会議室

講演者

「越中万葉の魅力」

坂本信幸氏(高岡市万葉歴史館館長)

「天平の单身赴任―史生尾張少作を教諭する歌」をめぐって― 鉄野昌弘氏（東京大学教授）

○国語科教員の会が、八月二日（土）の午後、国語科教員の卒業生をお招きして開かれ、教員志望の学生も多勢参加しました。教育活動報告として、日本

女子大学附属中学校教諭河本恵理子氏が「国語で「ひと」を育てるには―教員生活五年目までに知っておくこと―」と題して講演され、着任から五年間、附属校という特性を活かしつつ、いかに授業を作り上げ、生徒に向かい合ってきたかについて、具体例を交えてわかりやすくお話くださいました。その後、お集まりの先生方皆様より、近況報告と学生へのメッセージをいただきました。教育現場の厳しさ、同時に生徒とともに歩む充実感を伝えてくださり、これから教員を目指す学生たちにとって、貴重な時間となりました。交流会も開かれ、より具体的なお話を伺うことができました。日本文学科では、国語科

教員採用情報ネットワークで、教員採用情報や日本文学科の行事などをお知らせしています。教員免許をお持ちでご関心のある方は、国語科教員採用情報ネットワーク nichibuninfo@fcjwu.ac.jp にご登録ください。

○大学院談話会は、十月二十三日（木）（午後二時～三時半）に、百年館低層棟七階七〇一教室で開かれる予定です。今年度は、本学名誉教授・城西国際大学大学院客員教授倉田宏子先生をお招きして、「平

塚らいてうと成瀬仁蔵」と題してご講演いただきます。

＊ ＊ ＊

○【国文目白】第五三号ができました。ご希望の方は葉書で左記までお申し込みください。

〒一〇二一八六八一

東京都文京区目白台二一八八一

日本女子大学日本文学科研究室【国文目白】係
代金は、冊子到着後に払い込んでください。

（送料別 八〇〇円）

【国文目白】第五三号

熊坂敦子名誉教授 追悼号

田中 功名誉教授

弔辞

平館 英子

熊坂敦子名誉教授略歴ならびに著述目録

熊坂敦子名誉教授追悼記

弔辞

平館 英子

田中功名誉教授略歴ならびに著述目録

田中功名誉教授追悼記

情報検索と日本科学技術情報センター (JICST)

Development for Information Retrieval System

in Japan Information Center for Science and

Technology (JICST)

大谷 康晴

本意思における「美」と「真」（遺稿）

―家持と道元の歌が意味するもの― 岩野圭子

【古事記】における「天石屋戸」神話の意義

―アマテラスの役割と高天原統治― 本間小百合

狭衣物語における漢文受容の方法

―伝為明筆本と「新撰万葉集」― 一文字昭子

【古今和歌集】恋部における素性歌 谷崎たまき

【伊勢物語】二十三段論

―古注釈と近代注釈の比較から― 白鳥 藍

【今とるかへばや】の〈家〉への意識

―血脈上の子どもから家系上の子どもへ―

伊達 舞

【おくのほそ道】における「美人」論

白居易の開通詩における茶の意義 松本実可
森鷗外「魚玄機」論 柏淵彩花

―才女に向けられた二つの眼差し― 岡村あずさ

平林たい子「プロレタリアの星―悲しき愛情―」

―左翼運動の陥穽― グプタ スウィーティ

五島美代子第一歌集「暖流」

―作品配列の意味― 濱田美枝子

日本語母語話者大学生の言語コミュニケーション

―親しさと上下関係を中心に― 北島礼子

岐阜方言語彙の消長―美濃地方を中心に―

目加田明奈

【書評・紹介】【彙報】

二〇一四年十月二十七日発行

日本女子大学日本文学科国語国文学会卒業生の会

〒一〇二一八六八一 東京都文京区目白台二一八八一 日本文学科内